

大 報

おおだて

2月16日号
(No.359)

■編集と発行 大館市役所

1 月

交通事故・件数 17 件
傷者 22 人
死者 1 人
火災・件数 4 件
救急・回数 95 回

思い出の
アルバム



〈広報係からお願い〉

広報係では、市民の皆さんからの投稿、ご意見、ご要望等をお待ちしています。

・“市民の声”——テーマは自由。

市政や社会事象、身の回りのできごとなどについて、ご意見、ご質問等を200字以内にまとめてお送りください。住所、氏名（匿名希望の場合はその旨をお書きください）、電話番号を明記のこと。

・“思い出のアルバム”

昔懐かしい行事や風景、珍しい風俗などの写真をお持ちの方は、ご連絡ください。

〈宛先〉 大館市字中城20番地
大館市役所総務課秘書広報係
☎49-3111 内線259

写真は、昭和二十八年一月、花岡の新姥沢公営住宅の井戸掘り作業の風景です。
当時の井戸掘りは、すべて人力で、ひとつの井戸を掘るのに十人、二十人で一週間もかかりました。井戸の中に入っている人は、フンドシ姿にカッパを着て腰まで水につかって土砂を掘り出したものです。上の方は寒くても井戸の中は暖かいくらいでした。スコップで掘り出した土砂を上から吊り下がっている竹カゴに入れると、上にいる綱引きの女性たちが「ヨイショ、ヨイショ」と綱を引き上げます。狭い穴の中ですから、引き上げたカゴから落ちてくるしずくを避けることができず頭から泥まみれになって作業をしました。
井戸を掘るときには、水のある場所を勘でピタリと当てる名人がいて、その人の指示で掘ると良い水が多く出たものです。浅いところでは五十センチも掘るだけで出たところもありましたが、今では七十メートル位掘らないと出なくなりました。
今は、バックホウという機械で、ほとんど手汚さずに半日で掘ってしまいます。便利になったものですね。



堺谷義郎さん
(御成町二丁目・77歳)

泥まみれになりながらの
井戸掘り作業